

第1回 構造改革シンポジウム 参加者アンケート集計結果

主催：企画委員会

開催日：平成24年6月14日(木)14:00～17:00

内容：オープニング・スピーチ JISAの業界構造改革について

企画委員会委員長 島田 俊夫氏

①事例1「受託開発からのレセプトの電子化サービスに至る事業展開と特許取得」

(株)データホライゾン 代表取締役社長 内海 良夫氏

②事例2「サービスメニュー方式による保守サービスの提供」

アイエックス・ナレッジ(株) サービスインテグレーション事業部長 神津 利男氏

③事例3「新しい契約形態での受託開発サービス～価値創造契約の提案と実際について～」

(株)永和システムマネジメント サービスプロバイディング事業部

アジャイルグループ 主任 市谷 聡啓氏

④事例4「ユビキタス(どこでも)勤務に向けたBOYD/BYOCへの挑戦」

(株)シーエーシー 取締役兼執行役員 ソーシャルICT本部長 萩原 高行氏

クロージング・スピーチ 次回へ向けての期待

企画委員会前企画部会長 椎野 孝雄氏

参加者：111名(講師・事務局除く) 回答者：78名(回答率：70%)

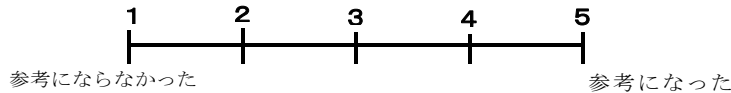
Q1 ご自身について、該当番号に○をつけて下さい。

	回答数	構成比
1 経営者層	29	37%
2 スタッフ部門	35	45%
3 事業部門	10	13%
4 その他	4	5%
5 無回答	0	0%
計	78	100%

Q2 貴社について、該当番号に○をつけて下さい。

(1) 資本系列	1 独立系	57	73%
	2 メーカー系	8	10%
	3 ユーザー系	11	14%
	4 その他	2	3%
	5 無回答	0	0%
計	78	100%	
(2) 従業員数	1 100名以下	5	6%
	2 101～300名	13	17%
	3 301～1,000名	22	28%
	4 1,001名以上	33	42%
	5 無回答	5	6%
計	78	100%	

Q3 本日のシンポジウムを振り返っていかがでしたか。感想をお聞かせください。
以下の5段階で該当する番号に○を1つ囲んでください。また理由をお聞かせください。



- 5 参考になった 19名(回答者の割合：25%)
- ・構造改革の必要性を強く感じる機会になった。我が社でも10年先を見すえた施策を実施していきたい。
 - ・弊社の状況にマッチする情報が多かった。
 - ・4つの事例がとても濃くて参考になった。
 - ・様々な企業が同じ問題点を、異なる視点で工夫している点がとても参考になった。
 - ・ドキュメントを読んでもよくわからなかった具体的な取組が講演を聞いて大変参考になった。
 - ・受託開発を中心とする当社の事業構造の転換を考える上で、論点整理も出来て、非常に参考になった。
 - ・事例(2)は多くの示唆を含んでいてかつ具体的であった。
 - ・事例(4)の姿にもっていくには、どうしたらいいかなと考えるきっかけになった。
 - ・各社とも具体的な取組内容が知れて良かった。
 - ・経営観点での具体的な事例について話を聞いた最初のスピーチであったため。
 - ・内海社長の経営姿勢と思いに感銘を受けた。心構えが心に残った。2件
 - ・「構造改革アクションプラン」は、まだまだ概念的な議論に止まっていると感じていたが、今回のシンポジウムでは具体的な取り組み・中小ベンダーにとっても目標感の持てる取り組みの方向性が共有出来た。
 - ・会場での質問が少ない日本に上手くマッチしたやり方。講演者のセレクション。
 - ・面白い手法でした。

4 まあ参考になった 43名(同：55%)

- ・興味をひく具体的事例、方針、基準が聞けて参考になった。8件
- ・知見のあるお話を聞き、気づきがあった。2件
- ・構造改革について参考となるシンポジウムだった。次回を期待。2件
- ・現在、業績が上がらず従来の方法や考え方で成長出来ないなかで会社成長の為のヒントが多くあった。
- ・構造改革の取組が具体的に事例によって説明され、参考になった。ビジネスモデルとしてはまだこれからだと思う。
- ・各々の企業での取組事例がとても参考になった。会社の大きさも当社と同等位の会社が、現状を把握しつつ、如何に変革しなければならないかを常に考えていることも非常に感激した。
- ・各社の工夫について聞いた。自社での参考になるばかりでなく、今後パートナー企業としてお付き合いの際に、各社の取組を知っておくことによってプロジェクトの運営に好影響をもたらすのではと感じた。
- ・各社各様に課題があることが理解出来た。如何に現状から抜け出すか、業界の課題であると感じた。
- ・状況は違うので対応策は様々だが、重大な岐路に立つ業界の中で具体的に実行に移していることを実感した。
- ・大変刺激を受けた。我が社はなかなか構造改革に向けた動きが出来ておらず、危機感をもった。
- ・既に認識していたことを、具体的な事例により再確認出来た。
- ・アジャイル開発、導入コスト0円での契約スキームは参考になった。自社でも検討を進めたい。
- ・様々な発想に基づいたチャレンジがあり、課題についてもよく理解出来た。
- ・事例1は、経営の基本とは何かを再認識させられたものであった。事例3のビジネスの着目点は参考にしたい。事例4は、社会の先駆けとしてのIT会社での実装実験として非常に面白かった。
- ・JISAとしての構造改革の考え方が聞きたかった。事例としては面白いと感じている。
- ・参考にはなったが、構造改革というテーマとは少し異なった内容もあったように感じた。
- ・一般的にも考えつく様な事例が多かった。あえて構造改革と言うほどなのか、という気もする。
- ・構造改革の取組事例紹介に対するQ&A方式という試みは、大変参考になった。
- ・検討手順（プロセス）が参考になった。
- ・各社が抱える悩みが把握できた。
- ・自社が既にクリアしている課題と、これからクリアしなくてはいけない課題の色分けができた。

3 多少参考になった 11名(同：14%)

- ・考える方向性を決めるだけの具体的にインパクトが無かった。時間が短い。
- ・今ひとつ個々の講演内容が理解出来ない。講演時間が短いせいなのか。
- ・参考になるものとそうではないものが半々であったから。
- ・事例として少し期待はずれ、もう少し違う内容を想像していた。

2 あまり参考にならなかった 2名(同：3%)

1 参考にならなかった 0名(同：0%)

※1と2に関しては理由のコメントなし。

Q3(続) 4つの事例をお聞きになって特に興味をもたれた点についてご記入願います。

・事例1関係

- ・内海社長の経営者の心構え、経営者的な考え方について、勉強させられた。
- ・改革を進める上で、経営の意志、判断が大きく影響していると思われる点。
- ・中小の会社でも創意工夫によって充分生き延びて行けるのだということを実感した。
- ・現状打破を目指している点。
- ・市場変化(含む顧客要求の変化)に対応した、自社のマーケティング体制について。
- ・「上りのエスカレータ」になっている業界を探すことが必要とのこと(当たり前と思うが、なかなか動けない)。

・事例2関係

- ・サービスメニュー方式による保守サービスの組織。
- ・AP保守のサービスメニュー化と事業化。
- ・サービスメニュー化の現状。メニュー化が他社差別化には追いついてないと理解出来た。
- ・属人化からの脱却。

・事例3関係

- ・価値創造ビジネスが面白い。
- ・価値創造契約はアジャイルを追求すると納得感がある。
- ・新しい契約形態での受託開発サービス。
- ・レンタル契約でのサービス提供～投資回収など難しい点はあるが、著作権が自社に残る点は素晴らしいと感じた。
- ・事業創造と契約の工夫。

・事例4関係

- ・BYODの産学活動への適用に関心あり。
- ・フットワーク軽く、新しいことに取り組まれていることに感心。
- ・ユビキタス勤務、オフィスのコスト削減の実現性。
- ・どこでもオフィスの利用と仮想デスクトップSWの利用について。

・その他

- ・質問をペーパーで集めるのは良い。

- ・具体的にどのようにアプローチしたかという点に関心を持った。
- ・構造改革を実施した背景も知りたかった。また、効果が出ているのか説明してほしい。
- ・構造改革の実現成功例として非常に面白い話が聞けたと思うが、試行錯誤の苦勞も聞きたい。
- ・どれも良かった。

Q4 構造改革シンポジウムで取り上げてほしい事例や企画があればご記入願います。

- ・この企画を継続してほしい(4件)。
- ・変革出来ない事例の紹介、失敗例。
- ・事業転換の事例。
- ・受託開発を維持しながらサービス化に展開したことに伴う、受託開発売上低下の影響とその克服の紹介事例。
- ・グローバル化事例、オフショア開発の成功事例。
- ・フリーミアムのビジネスモデルに対する対応方法や事例。
- ・独立系、メーカー系、ユーザー系別の事例。
- ・モチベーション向上、時代の変化に対応したスキルアップの取り組み。
- ・構造改革に対する経営者のスタンスを特徴的に抽出して紹介。
- ・業界内のみでなく、外界（顧客筋など）を含めたアプローチ。
- ・顧客企業のIT中期経営計画策定活動への参画事例（ITロードマップ共有）。
- ・協業のプロセスを構築するうえでの課題と、その課題をクリアした体験談を紹介して欲しい。